大阪プロバスクラブ

会報　第388号
2024年1月17日発行
Monthly Bulletin of
The Probus Club of Osaka

例会場：ホテルモントレ大阪　06-6458-7111
例会日：2022 年 7 月より毎月第 2 水曜日 12 時～14 時
○創立 2001（平成 13）年 7 月 9 日創立記念式 7 月 16 日
○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ
○友好クラブ：箕面ロータリークラブ
○会長：山下恵司　○幹事：川端崇且 Tel：090-2702-7212
○事務局：（幹事宅）〒562-0044 箕面市半町 2-5-23
○会報担当：西宮富夫　pxi06603@nifty.com
○大阪プロバスクラブ会報：http://osakapurob.exblog.jp/
○全日本プロバス協議会：https://www.all-japan-probus.com/
（R4 年 11 月の第 10 回総会で決定された新体制）
会長 田中信昭、幹事長 一瀬 明、会計 飯田冨美子
○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版：
http://probuscent.exblog.jp/

R5 年 12 月初旬～R6 年 1 月初旬までの更新分（順不同）

クラブ	会報	記事一部
旭川	会報第221号	11 月ボジョレー例会白鳥会長挨拶、ハッピーボックス、他
東京八王子	プロバスだより第337号	持田会長挨拶、卓話「思い出いろいろ」大野教子、新入会員歓迎懇親会「新しい一歩を踏み出そう」池田ときえ、俳句同好会便り他
姫路南（二水会）	会報第120号	10 月例会報告「グルメの会：家島のうまい魚を食べよう」益田信行記、「お荷物ですか」岡本浩一会員、「ユダヤ人」長谷川一彦会員、「祭り屋台の照明」藤原閲夫会員、他
神戸北	12月例会案内	「ひとこと」山田博補会員、12 月 7 日「忘年会例会」（須磨和風荘）、12 月 20 日「大阪プロバスクラブのお招きで Xmas パーティに 1 名で参加」、他
大阪	会報第387号	【ワイン】ボルドー・シュペリュールとは、卓話「私の山歩きと四国遍路」笠松幸一会員、近況報告「ビクトリアピークに歩いて登った」笠松幸一会員、他
北九州	月報 12月号 NO.210	卓話「明治日本の産業革命遺産について」八幡東町づくり協議会会長網岡健司氏、同好会報告（カラオケの会、歌を歌う会、写友会作品）、他

今回　第 389 回　新年例会　2024 年 1 月 17 日（水）
会場：ホテルモントレ大阪　12：00～14:00

●大阪プロバスの歌（作詞：渡辺　孟　補詩：田村徳郎）

① プロバスクラブへ集まろう　気の合う仲間とお昼時
元気に歌おう会の歌　第二の人生また楽し
② プロバスクラブに集まって　優しく気軽に話そうよ
見せたい自慢の得意技　遊びのプランもまた楽し
③ プロバスクラブに集まれば　高まる奉仕の心意気
世界に広がる和の願い　明日も愉快に生き抜こう

●『たきび』作詞巽聖歌　作曲渡辺茂
かきねのかきねの　まがりかど
たきびだたきびだ　おちばたき
あたろうかあたろうよ
きたかぜぴいぴう　ふいている

前回　第 388 回　通常例会　2023 年 12 月 20 日（水）
会場：ホテルモントレ大阪　16：30～19:00

◎通常例会：司会進行・伊丹谷五郎会員
○ソング：吉川栄子会員　●『冬景色』
○山下会長挨拶：大阪プロバスクラブの例会など日頃の活動の紹介等がありました
○幹事挨拶：1 月例会は 1 月 17 日正午から。次回例会で後期会費を徴収致しますとのこと。
○出席報告：担当委員長より会員 26 名との報告あり。
○OH-BOX:担当委員長より 7 名 26.000 円との報告。
★山下恵司会員：クリスマス楽しいですね。
★川端崇且会員：大阪プロバスクラブのクリスマス会に参加ありがとうございます。
★浅山紀久子会員：クリスマス例会ご参加ありがとうございます。楽しい時間をお過ごし下さいませ。来年も宜しくお願い致します。
★伊丹谷五郎会員：メリークリスマス楽しみましょう。
★吉田州伸会員：今晩は音楽一杯の楽しい Xmas を有難うございます。
★西宮富夫会員：寒くなってきました。枯葉の掃除も大変ですが、1 年も終わることができました。
★野村尚子会員：メリークリスマス　皆様大いに楽しみましょう。

◎クリスマス例会：司会進行・浅山紀久子親睦委員長
○食事タイム
★乾杯：箕面千里中央ロータリークラブ　植田豊實会長

Xmas 例会ワインリスト		生産地	生産者
1	シャブリ 1er Cru ボールガール’22	ブルゴーニュシャブリ	クリストフ・パトリス
2	ムルソーレ・ヴィルヴィュ　ブラン’21	ブルゴーニュムルソー	ドメーヌ・ミッシェル・デュポン・ファン
3	ヴォ―ヌ・ロマネ V.V.’20	ブルゴーニュ	フレデリック・マニャン
4	パストゥーレル・ド・クレール・ミロン	ボルドーポイヤック	シャトー・クレール・ミロン

（会報担当より：ページの関係でワインリスト 3 番目、4 番目ワインのみ記事に取り上げました。）

3 番目ヴォ―ヌ・ロマネ

4 番目クレール・ミロン

★リスト３番目ワイン名： ヴォ―ヌ・ロマネ　ヴィエ-ユ・ヴィーニュ’20（ブルゴーニュ）

（以下、畑から栽培・樽に至るまでこだわりを貫く限りなくドメーヌに近いネゴシアン「フレデリック・マニャン」より）

生産者：モレ・サン・ドニを拠点とし、5 代にわたってワイン造りを行う名門マニャン家。（中略）そして 5 代目のフレデリックは、（中略）1995 年、自分の理想のワインを造るため、父が造り上げたドメーヌスタイルではなく、敢えてネゴシアンという立場を取って「フレデリック・マニャン」名義でワイン造りを始めました。

フレデリック・マニャン

（画像引用：Winegrocery 記事　フレデリック・マニャンより）

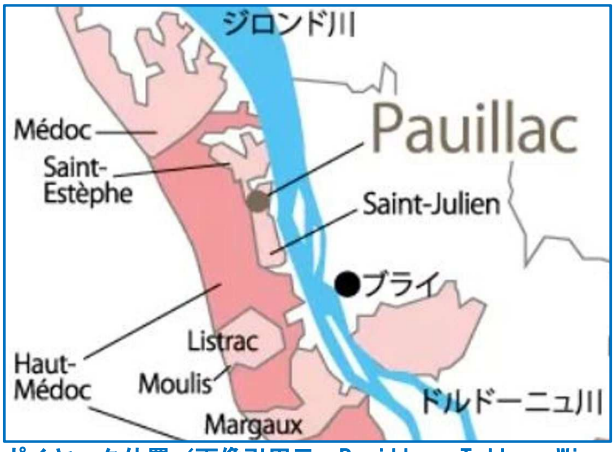
生産地：フレデリック・マニャン氏いわく「ヴォーヌ・ロマネの個性を引き出すために、ヴィエーユ ヴィーニュはどうしても必要だった。畑を選ぶ時、最低でも 50 年の古木と決めていた。そして枯れた土壌であること。樹齢が古いだけでは根は決して縦に伸びない。乾燥した土壌の中で根は縦に伸びようとする。（中略）だから畑選びには特に念入りに行った。」

★リスト４番目ワイン名： パストゥーレル・ド・クレール・ミロン（ボルドー、AC ポイヤック）

（以下、パストゥーレル・ド・クレール・ミロン｜エノテカ-ワイン通販より）

生産者：メドック格付け第五級のシャトー・クレール・ミロンは、シャトー・ムートン・ロスチャイルド・ファミリーの中で次男と称されるシャトー。

生産地：ボルドーポイヤックは、ジロンド河沿いから内陸まで競い合うようにシャトーがひしめく村です。
5 大シャトーのラフィットロスチャイルド、ムートンロスチャイルド、ラトゥールの 3 つが存在し、他にも格付けシャトー数が多く存在します。アペラシオン全体に存在する大きな砂利が水はけをよくし熱を蓄えるため、ブドウの果実がしっかりと熟成。そのため出来の良いカベルネ・ソーヴィニヨンが育つのです。



ポイヤック位置（画像引用元：Pauillac　Tell me Wine by Firadis より）

◎ショータイム冒頭曲「オブリビオン（忘却）」について

★ショータイム演奏曲（ミュージックサロンアトリエ）

1. オブリビオン忘却
2. G 線上のアリア
3. 星に願いを
4. すべてをあなたに
5. アヴェマリア　グノー
6. クリスマスメドレー
7. ホワイトクリスマス

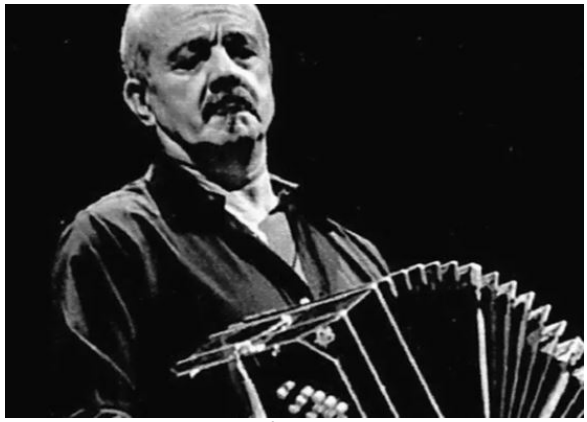
（会報担当より：演奏後、小林惇三元会員より昔 NHK のラジオで「忘却」という文言の有名なセリフがあったとのお話があり、吉田州伸会員に聞くと、**「忘却とは忘れ去ることなり」**というセリフだったとのこと。また、「忘れる」という文言は道元禅師の教えにも出てくる。これらは、「忘却」という文言で曲に繋がるので記事にすることとした。）

★オブリビオン忘却

（YouTube に入ってオブリビオン忘却を検索）（以下、文：朝倉ノ二―の歌日記オブリビオンより引用、画像：アストル・ピアソラ～Ausencias（不在）｜米阪隆広 TANGO GRELIO より引用）

○作曲はアストル・ピアソラ Astor Piazzolla

この曲（オブリビオン忘却）は、アストル・ピアソラが（中略）映画『エンリコ四世 Henri IV(1984 年)のメインテーマとして 1982 年に作曲されました。甘美なメロディながらどこかはかないこの曲は、狂気と正気の交錯するようなこの映画の内容に合っています。（中略）クラシックの演奏家たちも好んで演奏する曲です。



アストル・ピアソラ Astor Piazzolla

○映画「エンリコ四世」

（以下、映画 com エンリコ四世より引用）

現代イタリア映画界の巨匠マルコ・ベロッキオが、ノーベル文学賞受賞者で劇作家のルイージ・ピランデッロに

よる戯曲を映画化。
主演にマルチェロ・マストロヤンニを迎え、仮装パーティでヘンリー4世に扮したところ、落馬して頭を打ち、自分を本物の王だと思い込んでしまった男の悲喜劇を描いた。

★君の名は

（以下、タカちゃんの絵日記～忘却とは忘れ去ることなり。忘れえずして忘却を誓う心の悲しさよ～より引用）

・毎回、『忘却とは忘れ去ることなり。忘れ得ずして忘却を誓う心の悲しさよ』の有名なナレーションで始まるラジオドラマ『君の名は』は **1952 年**に始まった NHK ラジオドラマですが、翌年 1953 年には主演佐田啓二、ヒロイン岸恵子で、松竹映画社が制作しています。
（中略）確かに「ラジオドラマが始まる時間帯になると、女湯が空になる。」と言われ、ヒロイン真知子の‘真知子巻き‘（マフラー）が大変な人気であったことはよく覚えています。（中略）主演の佐田啓二が後宮春樹を、ヒロインの岸恵子が氏家真知子を演じるメロドラマです。

○映画「君の名は」

（以下、映画.com「君の名は」より文画像とも引用）

昭和 20 年 5 月 24 日の東京大空襲の夜、数寄屋橋の上で互いに命を助け合った若い男女後宮春樹と氏家真知子は、半年後の 24 日の夜、この橋の上で再会しようと約束した。青年は別れ際「君の名は」と聞いたが、彼女は名を言わず立去った。しかし約束の夜真知子は遂に現われなかった。（以下略）

★道元：正法眼蔵第 1 巻「現成公案」より

（以下、禅と悟りその合理的アプロ―チ「現成公案」より引用（筆者名は伏せておられる。））

仏道をならふといふは　自己をならふなり
自己をならふといふは　自己をわするるなり
自己をわするるといふは　万法に証せらるるなり
万法に証せらるるといふは　自己の身心および
他己の身心をして、脱落せしむるなり
悟迹の休歇なるあり，休歇なる悟迹を長々出ならしむ。

現代語訳：仏道がわかるとは、自己究明によって自分が分かるということである。**自分が分かるとは、自分を忘れる（自己への執着を離れる）ことである。**自分を忘れるとは、仏法の方から自分が証明されるということである。仏法の方から自分が証明されるとは、自己と他己の身心の区別を超越し、大悟徹底することである。しかし、一旦悟ったら、悟後の修行をさらに続け、悟りのくさみや迹かたを消して本来の自己に帰らなければならない。

★まとめ（画像とも会報担当による）

竜安寺石庭

隠れた石は見えない。隠れた心はどうする？

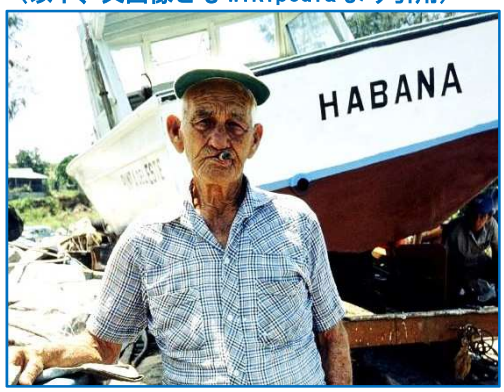
・「忘れる」ことは難しい。
竜安寺石庭は一目ではすべての石を見ることはできない。この庭は見ることさえ難しいことを教える。まして自分の心には何が隠れているかわからない。心の闇という言葉さえある。もちろんすぐ忘れることも多い。
・道元の教えは「自分がわかるとは自分を忘れる（自己への執着を離れる）こととする。覚えている自己はともかく、思い出すことがおぼつかない自己を忘れるなどできるのか？執着を「忘れる」ことは難しいと考える。
・「エンリコ四世」のように忘れていた自己をまた思い出すかもしれない。戯曲の中では、彼は自己を忘れたままにしておくことを選んだ。
・「君の名は」では忘れようとしても忘れられない自己をどうすることもできない。悲しい事だがそのままにせざるを得ないのである。
・「オブリビオン忘却」という曲は「甘美なメロディながらどこかはかない」「けだるい郷愁」（朝倉ノニ―の歌日記オブリビオンより引用）のようなものが感じられ、映画にあっているとのことである。この曲は「忘れる」ことの難しさに似合っているのかもしれない。

◎「ヘミングウェイの「老人と海」のモデルと話した」浅山紀久子会員ゲスト藤川貴史様

彼とは 102 才位の頃に取材で会った。20 年位前の話です。ヘミングウェイの話をした。決まり文句のようなところもあった。帰り際に声をかけられ、「私とヘミングウェイのように君たちも旅をしてくれ」とのことでした。

★グレゴリオ・フエンテス（Gregorio Fuentes）

（以下、文画像とも Wikipedia より引用）



老人と海のモデル
グレゴリオ・フエンテス

1993 年
キューバ

グレゴリオ・フエンテス は、キューバの漁師であり、アーネスト・ヘミングウェイとの友情で知られる。短編小説『老人と海』の老いた主人公サンチャゴのモデルの一

人とされている。（中略）フエンテスは 20 年以上に渡ってヘミングウェイの愛艇「ピラー」を操縦しただけでなく、船のうえで文豪のために料理やカクテルをつくった。ヘミングウェイは創作に倦むと、フエンテスとボートで海にでかけ、ひたすらに釣りを楽しんだ。（中略）フエンテスは（2002 年）104 歳で亡くなった。

★ヘミングウェイの略歴と家（文画像とも Wikipedia より）

老人と海の原作者
ヘミングウェイ

1954 年
ノーベル文学賞
写真 1954 年
キューバ

Wikipedia より

〇ヘミングウェイ略歴
1899 年イリノイ州オークパーク（現在のシカゴ）に生まる。
1928 年キー・ウェストに居を移した。
1930 年代スペイン内戦にも積極的に関わり、その経験を元に行動的な主人公をおいた小説をものにした。『武器よさらば』や『誰がために鐘は鳴る』などはそうした経験の賜物。
1952 年「老人と海」をライフ誌にて発表。
1954 年「老人と海」が大きく評価され、ノーベル文学賞を受賞。（以下省略）
〇ヘミングウェイの家
オークパークのヘミングウェイ邸はヘミングウェイの生家であり、一般に公開されている。（中略）キーウェストの屋敷は建物自体がアーネスト・ヘミングウェイ博物館として旅行客に公開されている。（中略）キューバの家はフィンカ・ビヒアとして知られており、現在では博物館として屋敷の一部が公開されている。

★フィンカ・ビヒアで展示されるピラー（Pilar）号
（以下、画像文とも海洋総合辞典（中内清文）より引用）
（キューバのヘミングウェイの家フィンカ・ビヒア Finca Vigia には「ピラー号」が展示されている）。

（ピラー号）

ヘミングウェイは愛艇の「ピラー号」を近くの漁村コヒマル（Cojímar）に碇泊させるとともに、愛艇に乗ってマーリン（marlin, マカジキ）などの大物を追いかけて、湾流（ガルフ・ストリーム）の流れるフロリダ海峡へと数え切れないほど出かけた。愛艇の船長はキューバ人の**グレゴリオ・フエンテス（Gregorio Fuentes）**であった。彼はグレゴリオに全幅の信頼を寄せた。彼にとってグレゴリオは船長であるとともに、よき話し相手、飲み友達であった。

★小説「老人と海」（Wikipedia より）
『老人と海』（The Old Man and the Sea）は、20 世紀アメリカの作家アーネスト・ヘミングウェイによる中編小説。出版は 1952 年で、ヘミングウェイの生前に刊行されてベストセラーとなった最後の作品である。この作品により、ヘミングウェイは 1953 年にピューリッツァー賞、1954 年にはノーベル文学賞を受賞した。
（中略）『老人と海』の物語はきわめて単純で、キューバに住む一人の老漁師が 84 日間もの不漁の後、巨大なカジキを 3 日間にわたる死闘の末に捕獲するが、その後にサメに襲われ、獲物を食い尽くされてしまうという話である。

★映画「老人と海」
（以下、画像・文ともめいすいの写真日記より引用）

名優スペサー・トレーシーが風格ある演技で漁師を演じ、ナレーションもつとめる。この２つの役に違和感を感じないのは不思議なほどである。老人の漁師としての人生観とカリブ海の美しさが魅力的に描かれている。

サンチャゴには大きな魚だとは分かっていたが、やっと跳ねた時に自分の船よりも大きなカジキマグロと知って驚く。

以上

次回　第 389 回　通常例会　2024 年 2 月 14 日（水）
会場：ホテルモントレ大阪　12：00～14：00